

令和3年度 千早赤阪村立学校 評価報告書

学校名（千早小吹台小学校）

校長名（仲村悦弘）

1. 教育目標

「やさしさと笑顔いっぱいの学校を目指して」

「豊かな心」「確かな学力」「健康な身体」の育成

めざす学校像

- 楽しい学校
- 明るい学校
- 開かれた学校

めざす子ども像

- 人の気持ちがわかる子
- すすんで学ぶ子
- 元気でたくましい子

めざす教師像

- 人権意識を大切にする教師
- 授業を工夫改善し研修に努める教師
- チームを意識し緊密に連携協力する教師

2. 経営方針

○こどもたちの自尊感情をはぐくむ

自分に自信を持ち、進んで学び活躍する子どもたちを育むために、自尊感情を高めることは重要である。

そのために、子どもたちの良い点を見つけるように心がけ、ほめる指導を進めていく。

達成目標…児童アンケートを実施し、昨年度より確実に上回る。

○考える授業を展開する

「思考・判断・表現」を高める授業を行っていくことは重要である。そのために、一斉教授型の授業ではなく、課題や疑問を子どもたちに提示したり問いかけたりして、しっかりと考えさせる授業を展開する。

達成目標…考える授業か問い、昨年度を確実に上回る。

○集団づくりを大切にする

集団の中で身につける人間関係力は、これからの人間形成基盤の大きな柱の一つである。そのため、学校行事や特別活動の取組みはもちろん全ての教育活動において集団で学ぶ効果が発揮できる活動を推進していく

達成目標…このことは達成目標になじまないが、学校に行くのが楽しいが昨年を上回ることは重要である。

○学校全体で学校評価を共有しPDCAサイクルを確立する

学校評価と学校教育計画をつなぎ、全教職員で目標を掲げ自己評価を行い公表していく。

3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		I 学力向上と教育力の充実
P	重点目標	<p>(1) 学習習慣の定着と言語能力の育成, (2) 外国語教育と異文化理解 「思いを伝え合う力の育成」 ～友だちとの対話を通して、他者理解を深め自分の考えをわかりやすく伝える～ ○外国語活動…指導方法の工夫と授業づくり・評価方法の検討 ○算数 …ICTの効果的な指導方法について ○学力向上 …読書の推進や自主学習ノートの定着、 授業スタンダードを意識した授業の実施</p>
D	具体的な取り組み内容	<p>(1) ①「学習用具のきまり」プリントによる学習姿勢を育む取り組み ②伝える力の育成として音読発表会を実施予定(11/13) ③効果的な習熟度別授業を3年生以上で実施 ・研究授業(未定) 5年算数 廣野、児島 ・タブレットを活用した授業実践報告(全学年) ④読書活動の充実としてホームリーディング活動(11/1～30)の実施 学校図書館司書との連携、委員会活動(劇による本紹介等)、朝読書活動の実施 ⑤自主学習ノート交流会の実施・考察 (2) ①外国語教育推進担当を中心に系統立てた学習内容の実施及び記録 ②研究授業および評価方法の確認 研究授業 11/29 3年外国語活動 厚芝 研究授業 2/21 1年外国語活動 阪上 指導講評 菅正隆先生(大阪樟蔭女子大学教授) ③異文化理解 ALTによる small talk や自作テストの検証 オーストラリアの小学校との TV 会議の実施</p>
C	自己評価／成果と課題	<p>(1) ①全学年で継続的に指導する必要がある。 ②大勢の人の前でも臆せず、大きな声で伝えることができるようになった。 ③コース分けすることで学習意欲は高まった。 ・研究授業(12/9)後に、各学年のタブレットを活用した実践報告を行った。 ④ホームリーディング活動は、実施期間を延ばすことで、落ち着いて取り組むことができ、読書意欲が高まった。 ⑤学年に応じたノートの状況を学校全体で共有することができた。 (2) ①昨年度まとめた低・中・高ごとに系統立てた「読み」「書き」の指導内容を取り入れた授業づくりをした。また、各学年の活動内容を共有できるよう、活動内容をまとめたプリントを作成した。 ②ICTを活用した授業に対する評価は高かったが、ICTとアナログの両方のよさをいかした授業を行うことが必要と話し合うことができた。3学期は、評価の仕方について研修予定。 ③TV会議については、相手校の状況も見ながら2学期末時点、3学年でTV会議を実施。3学期も実施予定。高学年のテストに関しては、昨年度の反省をいかして作成した。</p>
A	次年度に向けて	<p>(1) ①4月に「学習用具のきまり」プリントを家庭に配布し、学期始めには各学級で学習用具の確認をする。 ②音読発表会を行った成果はあったが、実施について状況を見極めて判断する。 ③コース選択方法については、レディネステストを実施し、まずは、児童がコースを選択する。 コースに違いがあれば、相談をして決める。 コースでの学習については、学習のスタイルに違いをつける。 ④⑤ホームリーディング活動、自主学習ノート交流会は、共に継続する。 ○千早赤阪村小学生活用テストの実施・分析 (2) ①カリキュラムが整ってきているので、その内容を取り入れた授業作りを大切にする。 ②外国語科・外国語活動において、ICTを活用すると効果的な活動場面を日々の実践の中から見つけ、共有していく。 ③授業での small talk や職員向けの ALT による small talk を、継続する。TV会議については、社会情勢も見ながら継続していく。</p>

3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		Ⅱ 豊かでたくましい人間性の育成
P	重点目標	(2) 道徳教育, (4) 体力・運動能力, (5) 食育 ○体育…体育活動を通して、運動の楽しさや喜びに触れさせ、運動好きな子どもを育成する。 ○給食…給食を通して豊かな心情を育て、正しい食生活のあり方を身に付けさせる。 ○保健…自分の心や体をよく知り、大切に守り育てる子どもの育成に努める。 ○道徳…自己の生き方についての考え方を深める授業づくり(学力向上・研修部)
D	具体的な取り組み内容	○体育 ① 様々な体力の向上のため、スポーツテストを各学年で実施 ② 実技ではなく、スライドショーや動画による着衣水泳の学習を実施 ③ 日頃の取り組みの発表の場、またつくり上げていく楽しさや達成感を味わわせるために感染症対策をして運動会を実施 ④ 体力づくりのため、かけあし運動・マラソン大会、なわとび教室を実施 ⑤ 体力づくりアクションプランを作成し、いろいろな技を経験させる。 ○給食 ⑥ 感染予防に配慮し、手洗い消毒の徹底、配膳・喫食の工夫を行う ⑦ 実際の給食を題材に、地場産物や栄養、魚の上手な食べ方等について指導を行う ⑧ 教科と関連し、「やさしい」「朝ごはん」等について食育を行う。バイキング給食は弁当形式で実施する予定 ⑨ 実態調査を行い、朝食欠食がある児童に個別又は集団での指導を行う ○保健 ⑩ コロナ対応：児童・保護者が毎日の体調チェックシートの記入し児童自身の体調をふり返る 手洗いやアルコール消毒、換気の意義を理解し、習慣化する ⑪ 熱中症予防：掲示している暑さ指数の表を見て、どのように行動すべきか考える ⑫ 職員の救命救急講習：より実践的な講習を行う ⑬ 保健指導・運動器検診：朝食の喫食率を上げる指導や6カ年での性教育など、児童の実態に即した保健指導を行う。 ○道徳 ⑭ 他教科との関連を図る ⑮ 個人用道徳ファイル等を活かした評価の実施、ワークシートや指導案等のデータ・資料の共有
C	自己評価／成果と課題	○体育 ① 今年度もコロナの関係で各学年ごとに実施。時間調整がしやすかった。 ② 実技の有無にかかわらず来年度以降も使用可能。 ③ 半日開催ではあったが予定通り実施。 ④ かけあし運動・マラソン大会、なわとび教室の実施。 ⑤ 実施計画途中。3学期末に内容精選予定。 ○給食 ⑥ 手洗い消毒、配膳・喫食の工夫。引き続き行う。 ⑦ 給食指導の実施。来年度も各学年ごとに実施予定。 ⑧ バイキング給食は、ランチボックスの形で実施。昨年度できなかった、給食センター見学を2年生でも行った。 ⑨ 実態調査の結果、朝食欠食が続いた児童には、担任の先生から声かけ等を行い、改善が見られた。 ○保健 ⑩ 体調チェックシート、手洗い消毒、換気の呼びかけ。引き続き行う。 ⑪ 毎日3回計測し玄関に掲示。引き続き行う。 ⑫ 健康教育部主催で実施。各役割を明確にして実施。水泳が始まる前には毎年実施できるようにしたい。 ⑬ 各学期に2回ずつ、二測定の際に、保健指導を実施。性教育は、3月に各学年で実施予定。児童の実態に即した個別の運動器検診・肥満指導を適宜実施した。 ○道徳 ⑭ 各学年で、社会科等と関連させることができた。 ⑮ 道徳ファイルを作ることで、その子の変化をみとれたり、単元ごとの気持ちの変化をみとれたりできた。 ⑯ 各学年のワークシートや資料を残しておくことで、次年度の担任も活用できる。
A	次年度に向けて	○体育 ○運動会…PTA 種目については精選していく。 ○マラソン大会…走行距離の検討(全国体カテストでは、1000mで実施している。) ○体調チェックシート…来年度も継続予定 ○救命救急講習…講師を招いて行うことができない場合は、健康教育部で実施する ○体カづくりアクションプラン…今年度の調査結果をもとに、作成

3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		Ⅲ 安心安全な学校づくりの推進
P	重点目標	<p>(1)いじめ・虐待防止, (3)防災教育</p> <p>生活指導目標「全校一貫した指導により、一人ひとりに基本的な生活習慣を身に着けさせる」 「自分で考え、自主的・意欲的に行動できる力をつける」 「お互いの人格と人権を尊重しながら望ましい集団を育成する」</p> <p>重点目標「全校一貫した指導により一人ひとりに基本的な生活習慣を身につけさせ、一人ひとりを尊重し、ともに高めあえる集団作りを目指す」</p>
D	具体的な取り組み内容	<p>(1)-1 「こころとからだ、くらしのアンケート」を月1回行い、些細な変化を見逃さないようにする。 -2 有事の際には、「いじめ・不登校対策委員会」「ケース会議」を開き、チームで対応、協議する。 -3 「気になる児童」については、経過観察するとともに、職員会議で全体に情報共有する。 -4 委員会活動、なかよし班活動(週1回のなかよし班掃除、月1回のなかよし班遊びなど)、クラブ活動では、高学年を中心に自主的に活動する。</p> <p>(3)-1 火災や地震の避難訓練を行う。 -2 1月の防災週間には、各学年で、防災教育を行う。</p>
C	自己評価／成果と課題	<p>(1)-1 三部会前に実施週間を設け、低・中・高で共有後、三部会で報告……◎ -2 個別の児童についてケース会議を行い、中・長期的な目標を設定し、対応した……◎ -3 職員会議や職員朝礼で、全体に共有している……◎ -4 高学年を中心に積極的に取り組んでいる……◎</p> <p>(3)-1 計画通り実施できたが、不審者対応避難訓練ではコロナ禍で警察の協力を得られなかったため、避難行動の動きのみの訓練を行った……○ -2 各学年で実施済……◎</p>
A	次年度に	<p>(1)引き続き、未然防止に取り組み、有事の際には迅速なチームでの対応を行える体制を作る。</p> <p>(3)次年度以降も、年間を通して防災意識を高められるよう、計画的に取り組む。</p>

3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		IV 学校及び教職員の資質向上
P	重点目標	<p>(1) 学校運営・評価, (2) 教職員研修の充実, (3) 働き方改革, (4) 地域学校協働活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価を教職員全体で共通理解し、PDCA の形で目標を立て改善していく方法を教職員が身に着けることで、よりよい学校運営の礎を作る。 ・村内外の研修に積極的に参加することを奨励し、教職員の授業力向上を目指す。 ・校務支援システムの活用により、効率化を図り業務改善を目指す。 ・地域支援本部との協働を進め、地域とともにある学校づくりを目指す。
D	具体的な取り組み内容	<p>(1) 学校評価について、教務・研修部と生徒指導部、健康安全部の 3 部会において、PDCAにより、目標を立て、具体的に取り組み、改善する方法を教職員が身に着けるようにその方法や手順を提示しながら進める。</p> <p>(2) 校内研修で多様な研修を実施する。大阪府の校外研修が中止等になっていることが多く、や東小研等の授業研に参加の奨励により、授業力の向上につなげる。</p> <p>(3) 少しでも早く学校から出ることができるようになるとともに早く帰る意識を高める。</p> <p>(4) ○地域支援本部のコーディネータと協働し、学校に協力いただく内容等を伝え、その配置について協議する。</p>
C	自己評価／成果と課題	<p>(1) 学校評価について、昨年度の実践があったので、今年度の学校評価のPDCAの形により、目標を立て、実践し、改善していく方法を行うことが順調に進行している。</p> <p>(2) 校内研修では、人権教育、給食時のアナフィラキシー対応研修、ノート交流研修や支援教育研修などを実施した。また、英語や算数の研究授業を実施し、校内研が充実することで授業力向上つながっている。また校外研修では、東小研等の授業研に参加している。</p> <p>(3) 少しでも早く学校を出ようとする意識が高まってきているが、校務が重なると少し遅くなることもある。</p> <p>(4) 地域支援本部のコーディネータと協働し、学校要望により、その配置が進むことがあった。ただ、新型コロナウイルス感染症の拡大により、保留しなければいけない状況もあり、難しい選択もあった。</p>
A	次年度に向けて	<p>全教職員参加の下で実施した「学校評価」については、PDCA のAをしっかり次年度に引き継ぐとともに、次年度以降も三部会を通じて重点目標を立てて学校評価に入れていきたい。</p> <p>学校外部の教職員研修について積極的な参加を促し、授業力や指導力の向上とともに、学校力向上に向けて前向きな意識を持つように、教職員の意識改革にもつなげていきたい。</p> <p>学校支援地域本部との連携は来年度以降も継続し、様々な教育活動にボランティア参加していただけるようにしていく。</p>

4. 教育自己評価

【教職員による評価】

- ・あいさつをしようとする機運が今年度は高まってきた。廊下でもあいさつをしている。先生方の指導の成果の表れである。
- ・黄帽をかぶる、靴のかかとを踏まないは、全体で指導した結果、大きく改善された。高学年が見本を示してくれた。
- ・日本各地で大きな揺れの地震が発生しているので、授業中だけではなく、休み時間などの地震を想定した避難訓練を経験することも重要である。
- ・子ども一人ひとりに寄り添った対応ができているので、それほど欠席がない状況である
- ・支援交流会や研修など、支援での発信が多く充実した体制がとられている。多くのサポートが必要な子が大切にされる学校はどの子ども大切にされる学校につながっていると思います。
- ・朝の時間は、どの曜日も読書タイムになっているが、読み取る力や書く力をつけるために新聞社のワークシートなどに取り組んでも良い。
- ・PTA活動のスリム化進めた。今後も学習参観時に実行委員会を行うなど、保護者も取り組みやすいPTAをめざしていきたい。
- ・子どもたちの理解がしやすいように、算数科では担当教員と担任が連携し、教材研究や指導方法の工夫など年間を通して取り組むことができた。
- ・3階のトイレが汚れていることがあるので、重点的にチェックしましょう。
- ・今年度の委員会活動は、子どもたちが自主的・意欲的に活動している姿が多く見られた。自主性や創造力が育ってきている。
- ・子どもたちへの村の活用テストの実施に伴い、学研部の案件が増えたように思う。話し合って三部会をそのままにすることになった。三部会の案件の見直しや人数調整を試みようと思う。
- ・二測定後の保健指導は資料をたくさん活用されていて、子どもたちにとって具体的でわかりやすかった。
- ・本校の子どもたちの残食数が少ないのも先生方の声掛けのおかげです。今後ともお願いします。
- ・警察と連携した防犯教室は、連絡を取りながら進めていたが、コロナ禍の影響で日程が合わず実施することはできなかった
- ・学校地域支援本部と連携することによりできる範囲で支援があり、子どもたちの教育を充実することに役立っている。

【外部アンケート等】

- ・通知表は1・2学期のコメント欄があった方が良かった。楽しみにしていた。
- ・基礎学力が身につけば、本人しだいで発展やまた応用問題にチャレンジできる環境があればなお良い。
- ・共働き等が増えてきているので、授業参観の回数が多すぎる。
- ・"金曜日に上靴を袋に入れ、靴下で教室を出ることはやめてほしいです。理由があると思いますが、靴下がとても汚れます。ご検討をお願いします。
- ・一人ひとりを決め細かにご指導いただきありがとうございます。
- ・両親共働きで、配布物や連絡事項を仕事で十分に見切れないのが現状です。先生方には本当に良くしていただき感謝しています。
- ・先生が子どもたちに厳しい言葉を浴びせるのは、いかがなものかと思えます。大変ですが、ほめて頑張ろうって気持ちにさせていたきたいと思えます。
- ・どの子どもオンライン授業を受けるべき環境にあるのか検証すべきだと思います。
- ・リーディングスキルテストを導入して欲しい。

学校関係者評価

学校評議員より

- ・運動会は、コンパクトで内容がよかった。
- ・時代にあわせてPTAをスリムにするのは良いことと思う。
- ・音読発表会は参観も見ることができ、工夫されていて良かった。

- ・学校臨時休校や学年閉鎖の授業時間の補填のため、すぐに7時間授業で対応してくれた
- ・新型コロナ等で長期に休んだ場合に宿題や授業内容をポスティングしてもらうのは心の支えになっていた。
- ・他校ではオンライン授業が進んでいる。人数の少ない学校だからこそ進んでもいいと思う。
ただ教育格差が生じることが無いように進めていってほしい。
- ・支援学級への指導体制や生活上支援を要する子ども大変きめ細かく対応している。
- ・少人数の良さが子どもへの対応に活かされている。
- ・今後とも子どもたちの心身のケアや学力保障に力を発揮していただきたい。

6. 第三者評価

学校評議員会議以外の第三者評価の会議等は実施していない。